

いわての農地と水路づくりの物語

「農業農村整備『紙芝居』の紹介①」

農林水産部農村計画課

「紙芝居」と聞いて、皆さんはどんなことを思い浮かべますか？

自転車の荷台に載った木枠と紙芝居、熟練のおじさんの語り、アメ玉やアイスキャンデーなど、いずれも昔懐かしいセピア色の情景ではないでしょうか？

農業農村整備紙芝居は、郷土の先人達が築き上げてきた農地や農業用水の開発の歴史を、次代を担う子どもたちに伝え、ふるさとへの愛着や施設への愛護心を持ってもらうことと、岩手県農林水産部が平成12年から取り組んでいるものです。第3回世界水フォーラム（平成14年・京都）での上演経験もあります。

昔懐かしい紙芝居を通して、子どもから高齢者まで広く県民に親しんでもらえるよう、随所に工夫を凝らしています。

現在は、全1話をそろえ、毎年、小学校の出前授業や「いわて環境王国展」などの各種イベントで上演し、好評をいただいています。このコーナーでは五話（毎回一話）に分け、農業農村整備紙芝居の内容を簡単に御紹介します。

第一回目は「耳かけ稲荷と水げんか」です。



【奥州市】
江戸時代、胆沢平野の水不足を解消するため、川から水をひく工事に力を注いだ「後藤寿安」のお話です。



【二戸市】
今から130年ほど前、羊を飼育する「牧羊」の仕事に取り組み、苦労の末に県内に牧羊技術を広めた「蛇沼政恒」のお話です。



【金ヶ崎町】
江戸時代、ため池を作る工事で、雨のたびに決壊してしまうため、「おいしい」という少女を人柱にしたという悲しいお話です。



【一関市】
今なお、絵図に描かれた800年前からの田園風景を残す、骨寺村荘園と平泉中尊寺の歴史にまつわるお話です。



【北上市】
更木地域で、幾たびもの失敗にもめげず、私財を投げうち、地域の水不足解消に力を注いだ「平野仁兵衛」のお話です。



【奥州市】
今から100年ほど前、江刺地域の米がたくさん穫れるよう、用水トンネルの開削工事に力を注いだ「小澤懐徳」のお話です。



【紫波町】
用水不足により300年間続いた「水げんか」を解決するため、地域の熱意によって山王海ダムを造りあげたお話です。



【北上市】
今から340年ほど前、村崎野一帯に広がる荒れた原野の開墾を行い、現在の北上市の礎を造った「奥寺八左工門」のお話です。



【一関市】
800年以上も前、田んぼに水を引く工事に力を注いだ「照井太郎高春」と、「武蔵坊弁慶」のエピソードを交えたお話です。



【盛岡市】
今から400年以上も前、盛岡・紫波地域の田んぼに、栗石川から水を引く工事の指揮をとった「鎌田甚六」のお話です。



【一戸町】
今から100年ほど前、「佐市郎夫婦」が村人の協力を得ながら、奥中山地域の広大な荒地を一大農地に造り上げたお話です。

お問い合わせ
岩手県 農林水産部農村計画課
電話：019-629-5666



⑨ 連日連夜の説得で疲労が重なり、ついに藤尾村長は、倒れてしまうのでした。



⑤ その度に、少ない水をめぐって「水げんか」が起き、飛び交う石でお稲荷さんの耳が欠けたといわれています。



① 紫波町・矢巾町・旧石鳥谷町にまたがる山王海地区のお話です。



⑩ その後、人々はようやくダム建設への協力を受け入れ、地域の平安を夢みて、住み慣れたふるさとを去るのでした。



⑥ なかなか解決策が見つからないまま、「水げんか」はエスカレートするばかりです。



② 現在は2001年完成の2代目山王海ダムが地域の広大な農地を潤しています。



⑪ そしてついに山王海ダムの完成！人々は「仙人踊り」をさかんに踊って祝いました！



⑦ やがて人々は争いに疲れ果て、途方に暮れるのでした。



③ 皆さんは、ダムふもとの志和稲荷神社のお稲荷さんの耳が欠けている理由を知っていますか？



⑫ 今でも志和稲荷神社のお稲荷さんは耳が欠けたまま。当時の人々が命をかけて水を求めた様子を伝えています。(終)



⑧ 当時の藤尾村長がダム建設に協力して欲しいと、人々をお願いするも、なかなか聞き入れてもらえません。



④ その昔、地域の田んぼの用水は滝名川に頼っていましたが、日照りが続くと、どうにも足りません。

農業農村整備紙芝居は、下記ホームページでも紹介しています。

岩手県公式サイト→農林水産部→農村計画課・農村建設課→農業農村紙芝居 で検索